

## 「保存科学」第50号出版のご挨拶

東京文化財研究所長 亀井伸雄

このたび東京文化財研究所保存修復科学センターの紀要である「保存科学」の第50号を出版する運びとなりました。「保存科学」第1号は、昭和39年3月（1964）に出版されました。第1号では当時保存科学部長であった関野克が文化財保存科学研究概説の中で以下のように述べています。

「文化財保存科学は、文化財の構造と材質の究明と、内的外的条件によって生ずる変化及び老化の現象を分析し、文化財の保存と修理に役立たせる目的を持っている。」また、「文化財保存科学のもう一つの焦点は、文化財とそれをめぐる外的条件、すなわち環境との関係であって、光、温湿度、水、汚染物質、害虫、黴菌、振動等の文化財に及ぼす影響とその防除についてである。」

関野元部長のこうした指摘と問題意識は、文化財の保存を考える上で今なお非常に重要であり、かつ不可欠なものといえることができます。東京文化財研究所では、こうした観点に立ってこれまで様々な種類の文化財の保存に関する研究・調査を行い、その成果を「保存科学」で公表してきました。

ところで、東京文化財研究所は平成19年（2007）に4国立博物館および2研究所からなる独立行政法人国立文化財機構の一施設になりました。これを機に当研究所の保存科学部と修復技術部を統合し保存修復科学センターと改組しました。そして、国立博物館など他の5施設の保存担当職員もこの保存修復科学センターに併任となりました。これは、国立文化財機構の統合を機に期待された、文化財の保存・修復に関する一体的な取り組みである「文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築」という大きな目標を達成するための措置で、保存修復科学センターがその中心的な役割を果たすことを求められたからです。

現在、国立文化財機構では保存科学や修復技術分野の情報の共有化をはかり、機能強化に努めているところです。今まで以上に各施設との連携協力を密にして、文化財に関する研究を進めていきたいと思っております。そして、「保存科学」の次の50号を見据えてさらに努力を重ねていきたいと考えております。

今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく御願い申し上げます。